

平成23年度に事後評価を行った評価結果（概要）について

1. 計画の指標の達成状況は次のとおりとなっている。

評価対象計画数	計画に掲げる指標をすべて達成した計画数	指標の達成が100%未満のものがあった計画数
6	3	3

2. 計画に掲げる指標をすべて達成した地区の、本計画に取り組んだ効果として、次のような実績があった。

(1) 農村の振興

- ・情報通信基盤の整備により、地域間及び都市住民との交流が促進され、地域の活性化が図られた。
- ・近隣の観光地の集客力向上を契機に、特産品開発や原材料の出荷拡大とともに販売対策や農家の意識高揚、新規栽培農家の掘り起こしに取り組んだ結果、新たに生産に取り組む農業者ができ、生産面積の拡大が図られた。一方、生産物の再検討により、多様な健康食品の原材料の生産振興に重点化し取り組んだ結果、当該地区の全ての遊休農地が各経営体に取り込まれ、有効活用が図られた。

(2) グリーン・ツーリズム都市農業の振興

- ・グリーン・ツーリズム推進体制の整備により、登録実践者の増加、ネットワークの拡大が図られた。併せて普及推進を行うことにより、応援団加入者数も大幅に増加し、交流施設等における滞在者数も確実に増加しており、都市農山漁村交流人口の増加による地域への経済効果と地域の活性化が図られている。

(3) 農業生産基盤の整備

- ・農道橋の保全により機能が回復され、農業生産環境及び交通の利便性が確保され、農産物の輸送の合理化が維持されている。また、交通の利便性が確保されることにより、集落機能や都市住民との交流が維持され、地域の活性化が図られている。

(4) 中山間地域等の振興

- ・該当なし。

3. 指標の達成が100%未満のものは次のとおりであった。

評価対象計画数	指標の達成が100%未満のものがあった計画数	うち指標の達成が70%未満のものがあった計画数	うち指標の達成が50%未満のものがあった計画数
6	3	2	1

4. 指標の達成が未達成となった主な要因としては、次のような事例があった。

(1) 農村の振興

- ・今年度は目標を達成できなかったが、次年度の目標達成に向けて、遊休農地の受け手となる担い手を選定した。また、担い手への農地集積に向けた調整も図られており、次年度の目標達成に一定の目処が立っている。

(2) グリーン・ツーリズム都市農業の振興

- ・都市との交流による農村の活性化を目指しているが、経済の低迷に伴う旅行者の減少、1～3月にかけて積雪が連続した異常気象の影響により宿泊者数等が伸び悩んでいる。このため、周辺施設をセットにした地域密着商品の醸成、効果的なPRにより目標達成に向けた取り組みを行っていく。一方で、田舎料理体験など、日帰り利用者が増加しており、こうしたニーズを捉えた施設利用を促進し、リピーターを確保しながら、宿泊体験者の増につながるような取り組みを強化し、交流促進等を推進していく。

(3) 農業生産基盤の整備

- ・該当なし。

(4) 中山間地域等の振興

- ・新技術の導入による地域資源を活かした農山漁村の振興を目指しているが、当該技術の優位性のピーアールに時間を要したことや、材料やその部位・形状等に応じた適切な技術的対応の習得に時間を要した。さらには、自然環境の変化による不漁や燃料費の高騰などにより漁獲量が大きく変動し原材料確保が難しかった。こうしたことなどが複合的に重なり、目標の達成が困難となった。このため、関係する漁協との仕入計画の明確化等の連携強化や、豊漁時の一時貯蔵による収集出荷の調整に取り組むこととした。また、二次加工品の開発や外食チェーン等との取引の強化を図ることとしている。さらに、これらを推進するため、UIJターンを含めた人材育成に努める。

5. 指標の達成が未達成となった計画については、今年度指標が未達成となった要因等を分析するとともに、「改善計画」を作成し、農政局の指導のもと、県・市町村が連携し、指標達成に向け取り組んでいる。